

同志社大学

2011年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2012年 3月 27日提出

所 属	職 名	氏 名
経済学部	助教	上ノ山 賢一
研 究 題 目	社会的地位と金融政策の影響 ―流動性制約によるアプローチ―	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本研究では、社会的地位を組み込んだ成長モデルを構築し、金融政策のマクロ経済に与える影響の分析を行っている。</p> <p>本年度は、昨年度に引き続き、成長モデルを基礎とした金融政策の波及効果分析を前提とする新たなモデルの構築を目指した。その研究の成果として 2011年5月22日に熊本学園大学で開催された日本経済学会春季大会にて論文（タイトル：Cash in Advance Constraint with Social Status and Endogenous Growth、川岸岳人氏との共著）の報告を行った。報告では、流動性制約が社会的地位に依存して変化するという新たな分析枠組みを提示し、貨幣供給率の上昇が内生成長率に与える影響を明らかにした。分析を通じて、消費と投資に貨幣が必要な Stockman type の流動性制約のモデルにおいても、貨幣供給率の上昇が内生成長率を上昇させる可能性があるという従来の研究では得られていない新たな結果を得ている。</p> <p>また同様のフレームワークを用いて新古典派タイプの成長モデルで同様の分析を行い、政府の貨幣供給率の上昇によって社会の資本ストックレベルが上昇する可能性があるという結果を得ている。</p> <p>これらの結果を基に論文を作成中であり、その一部を英文雑誌（Economics Letters）に投稿中である（タイトル：Status, cash-in-advance constraint, and endogenous growth、川岸岳人氏との共著）。他の内容の論文についても雑誌投稿の準備を進めている。</p>	